稲・麦・大豆かわら版
～水稲編（雑草イネ対策）～

2025.10.20　発行
栃木県塩谷南那須農業振興事務所
経営普及部　０２８７－４３－２３１８
https://www.pref.tochigi.lg.jp/g55/

1　雑草イネの特徴

（１）極めて脱粒しやすく、水田内で容易に拡散する
（２）農業機械（コンバイン、ロータリー等）に付着して他の水田へも拡散する
（３）放置すると収穫した玄米に混入し、異品種混入の被害をもたらす
（４）雑草イネも「イネ」であるため、水稲除草剤があまり効かない
（５）休眠性がありダラダラと発生するため、除草剤の１回処理では防除しきれない

→蔓延すると、品質や収量の低下を引き起こすだけでなく、販売が困難になり経営的に大きなダメージを受ける



Q、あなたの水稲栽培ほ場に、このようなイネはありませんでしたか？

1	2	3	4
			
・風や接触によって容易に脱粒する	・籾または玄米が着色している ・出荷時の検査で「着色米」や「赤米」混入の指摘を受けた	・芒（のげ）が長い、ふ先が着色している	・栽培品種と出穂期や草丈、稈長が異なる

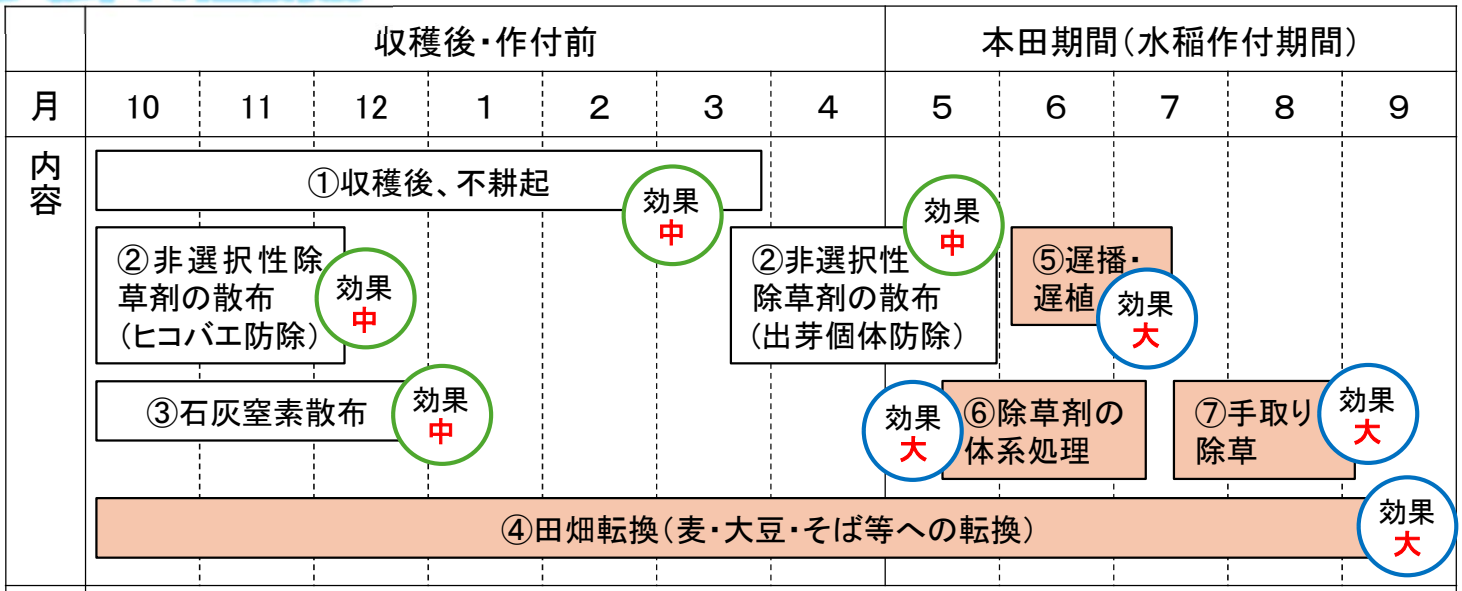
これら（特に１と２）に該当する場合、それは「雑草イネ」かもしれません！！
→裏面の防除対策を参考にして、「雑草イネ」防除を徹底しましょう！

9月～11月は「秋の農作業安全確認運動」の実施期間です。



高齢農業者の事故が多発しています！以下のことを心がけましょう。
- こまめな休息や健康診断の受診等、疲労回復と健康管理の徹底
- 歩行型トラクターでのバックの際は、必ず後方と足元の安全確認を
- 複数人での作業を基本とし、一人での作業の場合は携帯電話を持つ

2 雑草イネ防除方法 ＜一度発生すると、3年間は徹底した防除が必要です！＞



効果・留意点

①収穫後、不耕起
- 冬の寒さと乾燥で地表面のこぼれ籾を腐敗、死滅させる

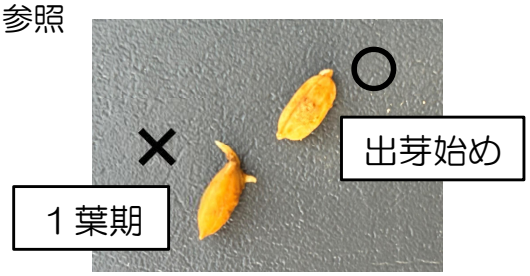
②非選択性除草剤の散布
- ヒコバエや発芽籾を枯らす
- こぼれ籾からの発芽籾を枯らす

③石灰窒素散布
- 地表面にこぼれた籾を枯らす
  ※稲わら除去後散布を行う

④田畑転換
- こぼれ籾からの発芽籾を枯らす

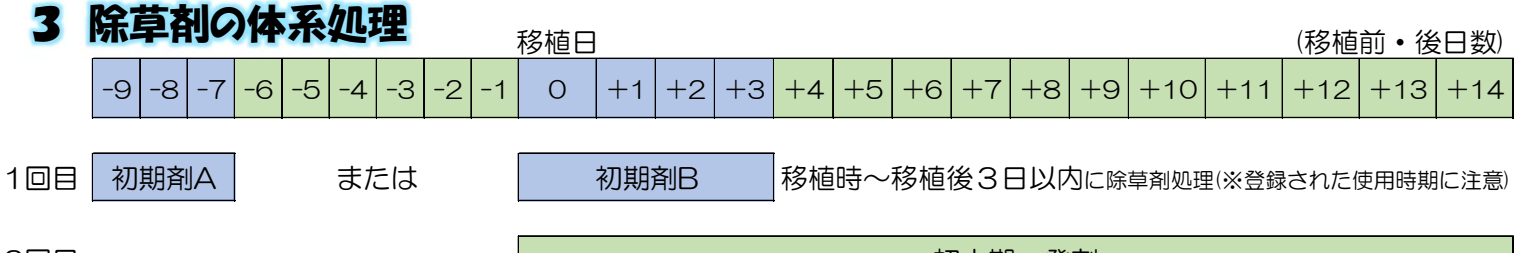
⑤遅播・遅植
- 播種を遅らせ、こぼれた籾を先に出芽させ土壌中に埋め込む

⑥除草剤の体系処理
- 雑草イネに効果のある除草剤を散布する
- 効果が高い剤でも１葉期を過ぎると効果が劣るため、使用時期の最も早い時期に使う
  →【表１】参照



⑦手取り除草
- 脱粒前（出穂後２週間以内）に抜き取るまたは地際で刈り取る
- 取り除いた雑草イネはビニール袋等に入れ、籾をこぼさないようにほ場外へ持ち出し処分する

3 除草剤の体系処理



【表１】移植水稲栽培における主な除草剤

（登録情報：令和７年10月15日現在）

区分	商品名	成分	使用時期	使用回数
初期剤A・B	エリジャンジャンボ	プレチラクロール	植代後～移植前７日 移植直後～ノビエ１葉期	１回
	ソルネット１キロ粒剤		植代後～移植前７日 移植時（田植同時散布機で施用） 移植直後～ノビエ１葉期	
	メテオ１キロ粒剤	ペントキサゾン		２回以内
初期剤B	マキシーMX１キロ粒剤	プレチラクロール メソトリオン	移植時（田植同時散布機で施用） 移植直後～ノビエ1.5葉期	１回
	かねつぐ１キロ粒剤	シクロスルファムロン プレチラクロール	移植時（田植同時散布機で施用） 移植直後～ノビエ1.5葉期	１回
初中期一発剤	ボデーガード１キロ粒剤	テフリルトリオン フェントラザミド	移植時（田植同時散布機で施用） 移植直後～ノビエ３葉期	

※いずれも移植後30日までが使用晩限

★農薬は使用前に必ずラベルを読み、使用時期・使用方法を確認して正しく使用しましょう！